

＜カレンダーベース市中発行額＞

(単位：兆円)

区 分	28年度当初		28年度(9月変更後)		
	(1回あたり)	(年間発行額；a)	(1回あたり)	(年間発行額；b)	(b) - (a)
40年債	0.4 × 6回	2.4	0.4 × 2回 0.5 × 4回	2.8	0.4
30年債	0.8 × 12回	9.6	0.8 × 12回	9.6	—
20年債	1.1 × 12回	13.2	1.1 × 12回	13.2	—
10年債	2.4 × 12回	28.8	2.4 × 12回	28.8	—
5年債	2.4 × 12回	28.8	2.4 × 12回	28.8	—
2年債	2.3 × 12回	27.6	2.3 × 12回	27.6	—
1年 割引短期国債	2.0 × 2回 2.1 × 10回	25.0	2.0 × 2回 2.1 × 10回	25.0	—
10年物価連動債	0.5 × 4回	2.0	0.4 × 4回	1.6	▲ 0.4
流動性供給入札	—	9.6	—	9.6	—
計		147.0		147.0	—

(注1) 40年債については、5月・7月・9月・11月・1月・3月の発行を予定している。

(注2) 1年割引短期国債は減額する一方、新たに1年政府短期証券を発行することにより、両者を合わせた1年国庫短期証券としての総額は維持し、1回あたり2.5兆円の発行を予定している。

(注3) 10年物価連動債については、4月・8月・10月・2月の発行を予定し、市場参加者との意見交換を踏まえ、市場環境や投資ニーズに応じて、柔軟に発行額を調整。

(注4) 流動性供給入札の毎月の入札額等の具体的な実施方法は、市場参加者との意見交換を踏まえ、市場の状況を見ながら決定。